

2011年(平成23年)9月25日(日曜日)

中海は宝物

未来守りネットワーク活動記

中海の浅場の水質が、開削や水門撤去により改善されています。中海の潮の流れは本来、反時計回りでしたが、現在では時計回りになっているのではないかと考えられます。

未来守りネットワークは、中海で長年漁師をしている皆さんに聞き取り調査しました。すると、漁場が米子市崎津周辺から米子港周辺へ移動している▽松江市の本庄工区や大海崎周辺にあった漁場で漁獲量が激減している▽境港市、島根半島の一部、米子市、安来市周辺の浅場の海域では、アサリの稚貝が毎年大量に発生している―などの事実が分かりました。これらは、大量の海水が

漁業資源

境水道から米子港へ流入し、塩分濃度の違う層を形成して、湖底の貧酸素の海水を押しさえ込んでいる可能性を示します。数年に一度、大雨の影響で河川から大量の水が中海に流入する淡水化に伴いアサリが死滅しますが、ある条件下では稚貝や成貝が生存している事実が判明したのです。

一方で、水質浄化に大いに役立っている海藻類(オゴノリ、ホンジュズモ)の

<11>

中海でじよれんを使ってアサリを採る漁師たち。漁場が移動し、漁獲量も変化している



復活へ水質浄化不可欠

異常繁殖により、浅場で海藻類が腐敗して硫化水素が発生し、魚介類を死滅させていることも分かってきました。私の個人的な考えですが、潮の流れが時計回りになっていることではないでしょうか。

中海・宍道湖の水質浄化を考え、農業集落排水施設や下水の高度処理施設も整備されてきましたが、化学的酸素要求量(COD)の数値がここ数年は下がっていません。原因究明を急ぐ必要があると思います。

かつて中海の水産資源は、現在の価値にして50億円以上あったと言われていました。それを復活させるには水質浄化が不可欠。官民の中海再生事業に対し、鳥取県漁協境港支所、中海漁協、米子市漁協は魚介類の産卵や育成の場につながることを認識し、協力しています。

水質浄化には、私たち周辺住民の意識改革や努力も必要です。中海・宍道湖は表裏一体の汽水湖ですから、双方の各漁協が協力した取り組みが、漁業振興をはじめ地域の基幹産業の発展に寄与するものと考えます。(未来守りネットワーク理事長・奥森隆夫)